

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272200247		
法人名	社会福祉法人 嶽陽会		
事業所名	グループホーム パインの森		
所在地	青森県弘前市大字百沢字小松野87-173		
自己評価作成日	平成25年6月30日	評価結果市町村受理日	平成25年11月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成25年9月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

我々職員は自立支援を第一に考え、毎日の活動を充実させるよう援助したり、できる事を見つけ、新たな事にもチャレンジできる環境づくりを心がけています。また、自治会では個々の意見を聞き、その場で出た案をすぐに実践したり、外出やイベント参加の希望も取り入れ、毎月全員で出かけております。その他、急な用事にも対応し、外出を多く行っています。毎年行っている本人の夢を叶える「ドリカム」では、担当職員と信頼関係を作る意味で、本人から叶えて欲しい夢を聞き、実行しています。今年度は既に「生まれ育った実家へ行く」「欲しいものがあるので買い物が見たい」等の希望を叶え、入居者の満足も十分に得ることができています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは見上げれば霊峰岩木山が雄大にそびえる農村地帯に立地しており、向いには温泉があり、恵まれた自然の中で、利用者がゆったりと過ごすことができる。ホームの特徴的なサービスとして、利用者の自立支援を第一に考え、利用者の可能性を見つけ、新たなチャレンジができる環境づくりに努めており、利用者組織としての自治会活動も行われている。また、本人の夢を叶える「ドリカム」という企画では、利用者の夢、希望を把握し、実行する等、独自にユニークな取り組みを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が理念を共有できるよう、遅番が午後のミーティングにて復唱して再確認する等、実践している。わかりやすい文章で、リビングや玄関に貼り、入居者、家族共に理念を共有している。	農村地帯における認知症高齢者を抱える家族、そして本人が、地域において安心して生活できるようにとの思いからホームは設立されており、その思いを込めた独自の理念を掲げている。理念の内容もわかりやすく、目につく所に掲示して、利用者・職員共に共有できるようにしており、日常業務においても常に理念に立ち返るように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区行事や地域の祭り見学、保育園や小学校の行事への参加や訪問、また、地区住民からのりんご狩りへの招待等を通じて、交流を図っている。	長い間培われてきた地域住民との関わりがあり、保育園や小学校の運動会等の行事に参加したり、お山参詣等の地域の祭り見学、クリスマスやりんご狩り等への参加等、盛んに交流が図られている。また、梅干しを作ってきてくれたり、雑巾縫いをしてくれる等、日頃から自然な形で交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	弘前地区作品展への出品とそこでの事業所の紹介の他、町内へ広報誌の回覧を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況や活動報告を行い、その場での意見をサービスの向上に活かせるよう工夫している。会議内容を見やすい事業所廊下に掲示している。また、メンバーの方にもドライブに参加してもらい、アドバイス等をいただいている。	2ヶ月に1回、定期的に会議を開催しており、メンバーには事前に検討内容を伝え、当日意見や提案を出しやすいように働きかけている。会議では、自己評価及び外部評価等の報告を行い、活発に意見交換をしている他、会議内容は見やすい場所に掲示して共有を図り、サービス向上に向けて取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター主催のネットワーク会議への参加の他、運営推進会議へ毎回参加していただき、情報提供や実態把握をしてもらう等、協力関係を築いている。	地域包括支援センター職員が毎回運営推進会議に参加しており、ホームの実態を理解していただきながら情報交換を行っている。また、地域包括支援センター主催のネットワーク会議に必ず職員が参加し、協力関係の構築に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で身体拘束を行わないケアの実践に取り組み、毎月の法人内研修で身体拘束を題材として研修を行い、再確認のために、パインの森職員勉強会の際にも同じ題材で復習を行っている。	身体拘束はしないと決めて日々のケアに取り組んでおり、ホーム内や法人内でも勉強会を行い、職員は身体拘束の内容や弊害について十分に理解している。また、マニュアルも整備し、必要に応じて家族の同意を得ることとしている他、近隣に働きかけて、万が一の無断外出時等に協力を得られる体制を整えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業計画に研修を取り入れている他、勉強会での再確認、虐待は行わないというモラルの意識浸透、発見した場合のマニュアル、グレーゾーンの確認等、周知徹底を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修への積極的な取り組みの他、地域包括支援センターの方からのアドバイスや知識を取り入れ、権利擁護を題材とした職員勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は納得するまで十分に説明している。また、年1回の個別懇談実施により、重要部分の再説明を行い、家族の介護に対する意向や意見を聞き入れるような体制をとっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の広報誌の発行を通じて月毎の状況説明をしており、手渡す際には意見を伺っている。また、直接話しにくい場合等も考慮し、玄関に苦情意見箱を設置している他、相談や苦情申し立てができることを重要事項説明書や口頭にて伝えている。	毎月発行の広報誌を手渡す際や毎月1回の面会時に、家族の意見や苦情の把握に努めている他、年1回個別懇談の場を設け、意見を聞いている。また、利用者の中で自治会長を決めて、毎月1回自治会を開催し、意見や要望を話し合っている。苦情受付時には2人以上複数で対応し、必要に応じて法人の苦情解決委員会で検討して、迅速に対応する体制を整えており、その結果は全職員で共有化を図り、改善に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は会議の場や内部研修の際に、職員の意見や提案を聞く機会としている。ホーム内では毎月の会議にて意見を言える環境があり、毎朝・夕のミーティングの際にも発言の機会を設け、問題解決に取り組んでいる。	月1回のホーム会議や毎月朝・夕のミーティング時等、職員の意見を聞く機会を設けており、出された意見や提案を反映できるように取り組んでいる。また、法人全体でキャリアパスを設け、職員の向上心や待遇改善へとつなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを設け、職員各々が積み重ねてきた過去の経験や実績を踏まえ、将来どのレベルに到達すればよいか、その見通しを明らかにしている。また、年2回、人事考課を実施し、賞与や正職員の登用へと反映させ、向上心につなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部の研修への参加に配慮し、会議の場等での情報提供や復命を行ってもらっている。また、定期的にスーパーバイズしてもらい、質の向上に向けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ネットワーク会議に参加したり、地区のグループホーム協会に加入しているため、情報交換を行っている。法人内に他にグループホームが3ヶ所あり、普段から情報交換を頻繁に行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の見学や事前の本人や家族との面談により、直接意向を確認するようにしている。また、信頼関係を築くためにも、家族や担当ケアマネの協力を仰ぎながら、本人の不安を解消し、安心して生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族、居宅介護支援事業所とも連携を図りながら、情報収集に努め、家族等の要望を聞き出せるように配慮している。また、重要事項説明書にて説明する際に、質問等を確認し、不安をなくしてもらうように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用希望者や家族等のニーズに対し、何が必要かを見極め、関係機関との連携を図りながら、必要に応じたサービスが受けられるよう、担当ケアマネとこれまでの状況を確認、協議しており、本人がより良いサービスを受けられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活歴を把握し、可能な限り、以前の生活を継続できるように、できる事は行ってもらい、できない事は援助しながら、共に助け合っていける関係・環境づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月1回の面会をお願いしており、直接状態報告をしたり、要望、意見等を伺うようにしている。また、家族への連絡は密に取り、状態報告を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、知人等との今までの関係の継続はもちろん、病院等もかかりつけ医への通院ができるように努めている。	入居時のアセスメントや日常生活の中から、これまで関わってきた人や馴染みの場所の把握に努めている。古くからの知人や最近まで隣接していたデイサービスの馴染みの人等を訪問したり、手紙への返信や年賀状等で交流が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、入居者が孤立しないように職員が間に入り、関わり合いができる場を提供して、支え合う支援に努めている。また、共同作業によるチームワーク作りにも努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談にのったり、支援の必要性に応じて対応できる体制を整えており、本人や家族の経過をフォローできるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の中から自治会長を決め、毎月1回、自治会を行い、普段言えない意見や要望を話せるような場を設け、雰囲気づくりに努めている。また、計画作成時、担当職員とゆっくり話し合う場を設けている。	利用者が会長を務める自治会組織があり、毎月1回自治会を開催し、思いや意向を話している。また、担当職員とゆっくり時間をかけて話す場を設け、時には家族等から情報を得ながら、利用者の身になって意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮の上、一人ひとりの生活環境や性格等を家族や本人から聞き取り、フェースシートに記入して、職員全員で把握しており、適切な援助へと反映できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方を観察し、心身の状態、有する能力等の現状把握に努めている。また、更なる発見ができるように、新しいことへのチャレンジに取り組み、QOLの向上に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年に1回、今現在の状況を把握してカンファレンスを行い、本人の意向を基に、職員や看護師の意見の他、年1回の家族個別懇談や月1回の面会時に把握した、家族の要望・意見等を取り入れた介護計画の作成を行っている。	「ドリカム」という企画があり、年1回、利用者の「〇〇したい、〇〇になりたい」等の夢や希望を実現する支援に取り組んでいる他、カンファレンスには本人や家族も出席し、利用者や家族の意向を反映させた介護計画の作成に努めている。また、面会時や年1回の家族個別懇談で要望や意見の確認をしており、担当者は毎月の状況変化を日々の記録の中からまとめる等、それらを介護計画に反映させて、個別で具体的な計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	担当者による月毎の状態や状況、変化等のまとめや、計画作成担当者によるモニタリングを行い、見直しや実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	車椅子利用者の帰省援助の他、家族の宿泊も可能であり、宿泊家族への寝具や食事の提供も対応可能となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターや民生委員、また、家族との協力体制の下に、保育所、小学校等との地域交流を行いながら、本人が安全で豊かな暮らしができるように配慮している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望する医療機関を受診し、適切な医療を受けられるように支援している。日々の状態報告や家族付き添いの通院の際は、介護サマリーを提出している。	利用者の受診台帳を作成し、個別ファイルにも受療状況を記録し、把握している。ホームでは利用者や家族が希望する医療機関への受診を支援しており、眼科受診、訪問歯科診療等も利用している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携している看護師が週1回訪問する際、バイタル測定をしながら状態の確認を行っており、職員の相談や緊急時、夜間の対応も行い、月1回の入居者勉強会のためのアドバイス等の援助もいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師や家族、ケアマネとの連携を密にし、情報の共有化を行い、本人、家族にとってより良いケアとなるように協議している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制を整え、看護師とも24時間の協力体制がとられている。また、年1回、家族と個別懇談を行い、終末期の方針を毎年確認している。	重度化や終末期の対応として看取りの方針が打ち出され、重要事項説明書にも明記している他、希望や状況の変化に応じ、家族等関係者の意思統一を図っている。また、医療連携体制や看取りケアについては、母体法人の嘱託医や看護師からの協力体制を整備しており、ホーム職員の研修等、支援体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時に備えたマニュアルがあり、定期的な確認と勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、夜間想定で避難訓練を行い、実際に避難している。火災、災害の際の緊急連絡体制を掲示し、職員が把握しやすいようにしている。また、災害時に備えて非常食も準備している他、地域住民との協力体制もできている。	夜間を想定した避難誘導策を作成し、年2回、避難訓練を実施している。また、初期対応として連絡網訓練も行っている。地域住民の協力者を募っている最中であり、災害発生時の体制づくりを進めている。また、災害時に備えた備蓄を行い、暖房や発電機等は法人本部が整備しており、連携することとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に相手の立場に立った声かけや対応を心がけている。毎月の交換実習での気づきや毎年1回のスーパーバイズの実施も行っている。	スピーチロックをしないこととしており、介助時や声がけは利用者の羞恥心に配慮している。ホーム通信への写真掲載時には許可をとったり、他施設の職員がホームに交換実習として勤務しているため、個人情報の取り扱いにも配慮している。また、日頃から、気にかかる発言については、その都度注意を合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の夢を叶える企画「ドリカム」を毎年1回行い、担当者と共に、本人の希望を話し合う機会を設けて決定し、実行している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	趣味や特技等を考慮した生活の実現、新しい事や昔行っていた事へのチャレンジ等、本人の希望やペースを尊重した柔軟な対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時の洋服の選択を支援したり、髪染め等を希望する人への援助も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いへの代替、同じ食材でのメニュー変更を行っている他、昔ながらの味付けにしている。また、漬物作りの手伝いや食器・テーブル拭き、後片付けはできる人全員の下膳等を分担して行っている。	法人の栄養士が献立を作成しており、好き嫌いへの代替や昔ながらの味付けにする等、配慮している。行事食として取り入れている寿司パーティーやバーベキュー、鍋料理等も好評であり、利用者は買い出しや漬物作り、後片付け等、できる範囲で職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がバランスを考えて献立を作っている。午前・午後、おやつ時に本人の嗜好する飲み物を提供し、水分表をチェックして、一人ひとりの水分量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、睡眠時の義歯洗浄剤の使用、また、外出から戻った際のうがいを徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表に記録して、便秘に対する早目の対応や排泄間隔の把握、定期的な排泄の声かけ介助にて、失敗のない排泄環境に努め、おむつやパット外しに取り組み、成功している。	利用者一人ひとりの排泄パターンの記録から排泄間隔を把握し、プライバシーに配慮の上、定期的な声かけや早めの誘導に取り組んでいる。また、適切な支援により、紙おむつ、尿取りパットをぬらさなくなった利用者もあり、排泄の自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表での便秘の把握や確実な申し送り、早めの便秘対策を行うと共に、水分量を増やしたり、牛乳の飲用、腹部マッサージ、運動等で薬に頼らないよう援助している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	1人で入浴できる入居者は、本人の希望があれば、毎日の入浴も可能である。	入浴日は少なくとも週2回以上としているものの、希望に応じていつでも対応が可能な体制を整えている。利用者の多くは就寝前の入浴を希望しており、好みに応じて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠を促すため、夜眠れない入居者には日中、活動的に過ごしてもらうように援助したり、疲労感が見られる際は臨機応変に休息する時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の処方箋を綴るファイルを置き、いつでも確認できる状態にある。また、服薬変更時は職員全員と看護師へ申し送りし、状態変化にも注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	菜園や花壇作り等の趣味に合わせて一緒に育てたり、家事全般の得意な分野に関して一緒にできるような支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎朝の体操の時間や毎月の自治会の際に、全員で話し合える時間を持って希望を聞き、可能であれば、天気も考慮しながらその日にでも出かけている。また、遠出の場合は月行事に取り入れるように努めている。	利用者自治会で希望をとりまとめ、近隣の行楽地やショッピング等に日常的に出かけており、利用者の気分転換を図っている。遠出の場合は月行事として、なるべく全員で外出できるように心がけており、必要に応じて、運営推進会議のメンバーからも協力を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる範囲で、本人に所持してもらうことで安心感を持っていただいたり、ショッピングでは金銭感覚を養い、継続しながらも、本人の嗜好品を選ぶ楽しみも味わってもらえるように援助している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、必要に応じて電話ができる環境である。また、毎年、直筆を含めた年賀状を出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは家庭的な雰囲気が保てるように配慮している他、物音や声、テレビ、音楽の音量等は適度であり、採光性もよく、展示物も季節感を考慮する等の工夫をしている。	各調度品も落ち着いたあつらえで、家庭的な雰囲気につながっている。利用者とのコミュニケーション時や説明、声かけ等、職員の話す声も適切であり、テレビや昼食時にカセットテープで流す懐メロの音量も適切に配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は個室であるため、リビングでは会話を楽しめるように、応接セットやテレビ空間、作業空間等を確保している。明るさや温度、湿度に気を配り、過ごしやすい環境づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や使い慣れた物、また、テレビ、テーブル、家具等を持ち込んでいる。位牌や写真等を持ってきて、毎朝のご飯やお茶をあげたり、以前の生活を継続できるように、過ごしやすい環境づくりに努めている。	住環境をあまり変えずに、利用者が安心して過ごせるように、馴染みの物、愛用品を持参するよう働きかけている。利用者の中には仏壇、位牌、写真等を持参している方もおり、以前の生活の継続ができるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物は自室にて自分で干し、乾いた物は自分でたたむ習慣を継続できるような環境づくりを行っている。また、洗濯物だけでなく、食事の準備や食材の仕分け等、できる事は行ってもらい、できない事は職員と一緒に行うことで、意欲向上に努めている。		